

第76回運輸政策セミナー オンライン開催のご案内

拝啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび運輸総合研究所におきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「運輸政策セミナー」をオンラインにて開催することとなりました。

つきましては、ご関心をお持ちの皆様におかれましては、ご参加を賜りますようご案内申し上げます。また、ご関心をお持ちの方々に広くご周知頂ければ幸いです。

ご参加に当たりましては、大変恐縮ですが、申込み専用 URL からお申込み頂きますようお願い申し上げます。

敬具

記

○第76回運輸政策セミナー（オンライン配信）

日 時：2021年8月31日（火）15:00～17:30

会 場：オンライン（Zoom ウェビナー）

テ ー マ：モビリティ・マネジメント×MaaS：最強タッグで人々の行動が変わる

プログラム

（1）講 演

①テーマ：「モビリティ・マネジメントのココロ」

講 師： 谷口 綾子 筑波大学大学院システム情報工学研究科教授

②テーマ：「MaaS とコミュニケーション」

講 師： 牧村 和彦 一般財団法人計量計画研究所 理事 兼 企画戦略部長

③テーマ：「地方都市の公共交通利用促進戦略-アナログ MaaS とモビリティ・マネジメント」

講 師： 浅見 知秀 小山市都市整備部技監

（2）登壇者による鼎談および質疑応答

（3）全体講評

コーディネーター：山内弘隆 運輸総合研究所所長

概 要

日本での MaaS には、アプリなどで移動手段選択や予約決済などのハードルが下がれば、人々は公共交通を使うようになる、と楽観的にとらえている感がみられます。しかし、MaaS にインフラや仕組み・制度の整備のみならずコミュニケーションを重視した交通施策である「モビリティ・マネジメント」を組み合わせれば、さらに強力に人々の行動変容を促せる可能性があると考えられます。

そこで本セミナーでは、谷口先生より、事例を交えながらモビリティ・マネジメントのエッセンスをご紹介いただき、牧村様からは、リアルとバーチャルを融合した新しい交通まちづくりの重要性について、浅見さまからは、小山市で実際に取り組みされた MaaS の導入経緯や効果の事例についてご発表いただきます。

これらのご講演を踏まえ、持続可能な MaaS の実現に向けての議論をしていきます。

参加費：無料

お申込み：下記の URL よりお申し込みください

<https://krs.bz/jterc/m/semi210831>

(申込期限：8月29日(日)まで)



※お申し込み頂いた方には、8月30日(月)午後に視聴用 URL をご送付いたします。

お問合せ：一般財団法人運輸総合研究所 企画部（担当：新倉）

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19（UD 神谷町ビル）

TEL：03-5470-8415 FAX：03-5470-8419

E-mail：collo@jttri.or.jp

HP：<https://www.jttri.or.jp/>

● 講演：「モビリティ・マネジメントのココロ」

講師： 谷口 綾子 筑波大学大学院システム情報工学研究科教授

(概要)

モビリティ・マネジメントは、インフラや仕組み・制度の整備のみならずコミュニケーションを重視した交通施策である。その技術は、交通渋滞緩和、公共交通利用促進、交通安全など、人々の行動変容が望まれる交通運輸の諸課題に応用されている。本講演では、モビリティ・マネジメントのエッセンスを、事例を交えつつ紹介する

(経歴)

【学歴】北海道大学工学部土木工学科卒業(1995)、北海道大学大学院工学研究科土木工学専攻修了(1997)、北海道大学大学院工学研究科博士課程都市環境工学専攻修了(課程短縮)(2003)、博士(工学)(2003)。

【職歴】日本データサービス(株)技師(1997-2003)、日本学術振興会特別研究員(PD)(東京工業大)(2003-2005)、筑波大学講師(2005-2013)、カールスタッド大学(スウェーデン)客員研究員(日本学術振興会特定国派遣研究者)(2012-2013)、筑波大学准教授(2013-2019)を経て、2019年より現職。

【受賞】日本都市計画学会 論文奨励賞(2002)、第34回交通図書賞(2009)、グッドデザイン賞(2020)、他。

【著書】モビリティ・マネジメント入門(学芸出版社、2008)、土木計画ハンドブック、第5章、第14章(コロナ社、2017)、他

【社会活動】内閣府規制改革推進委員会、内閣府PFI推進委員会、国土交通省社会資本整備審議会、等、公職多数。

【専門分野】都市交通計画、態度行動変容、新技術の社会的受容、リスク・コミュニケーション



● 講演：「MaaS とコミュニケーション」

講師： 牧村 和彦 一般財団法人計量計画研究所 理事 兼 企画戦略部長

(概要)

MaaS (Mobility as a Service :「マース」)を通して、移動サービスのデジタル化に対する社会受容性を向上させ、人々の行動変容に繋がるための先進的なMaaSの取り組みをご紹介しますとともに、リアルとバーチャルを融合した新しい交通まちづくりの重要性をお話します。長年MMに取り組んできた経験から、持続可能なMaaSを実現していくためのヒントを皆様と一緒に議論します。

(経歴)

一般財団法人計量計画研究所 理事 兼 研究本部企画戦略部長。モビリティデザイナー。東京大学 博士(工学)。

1990年一般財団法人計量計画研究所(IFS)入所。筑波大学客員教授、神戸大学客員教授、南山大学非常勤講師。一般社団法人JCoMaaS 理事、一般社団法人日本モビリティマネジメント会議理事。

将来の交通社会を描くスペシャリストとして活動。内閣官房未来投資会議、官民連携協議会等に参加。経産省スマートモビリティ推進協議会企画運営委員、国土交通省 MaaS 委員会の臨時委員、国土交通省ユニバーサル社会における MaaS の活用方策についての研究会委員、国土交通省バスタプロジェクト推進検討会委員等を務める。

代表的な著書に、「MaaS が都市を変える～移動×都市の DX 最前線(学芸出版社,2021)」、「MaaS ～モビリティ革命の先にある全産業のゲームチェンジ(日経 BP、共著、2020)」、「Beyond MaaS～日本から始まる新モビリティ革命 ー移動と都市の未来ー(日経 BP、共著、2019)」、など多数。



● 講演：「地方都市の公共交通利用促進戦略-アナログ MaaS とモビリティ・マネジメント-」

講師： 浅見 知秀 小山市都市整備部技監

(概要)

小山市の MaaS は、マイカー無しでも便利な移動サービスと豊かな生活を小山市民、小山への来訪者に提供することを目標に取り組んでいる。具体的には、アナログ(紙)バス定期券 noroca で完全定額制サブスク型運賃(約 28,000 円/年で市内全 14 路線乗り放題)を 2019 年 10 月導入、全市民 16.7 万人を対象とした MM を実施した。結果、バス利用者 1.1 倍、定期券保有者 3.3 倍に増加、現在も増え続けている。更に noroca 保有者へのタクシー初乗り無料化実験、市内商店街割引サービスを開始した。一連の取り組みの経緯や効果を報告する。

(経歴)

2009 年筑波大学大学院修了。同年 JR 東日本入社、仙台配属当時に東日本大震災を経験。その後、気仙沼線 BRT など震災復興のほか、新駅開発、駅改良等の建設工事プロジェクトに従事。都市政策に関わることを志望し、2015 年国土交通省に転職。都市計画道路、立地適正化計画、土地区画整理事業、旧まちづくり交付金制度を担当し、全国の地方公共団体のまちづくり支援業務に従事。2017 年小山市に出向し、3 年間都市整備部長を務める。在任中は、まちなか公共空間の利活用によるウォークアブルなまちづくりの推進と公共交通改善・利用促進に尽力。小山市のバス改善とモビリティ・マネジメントプロジェクトで、グッドデザイン賞(2020 年)、JCOMM プロジェクト賞(2020 年)、EST 交通環境大賞優秀賞(2021 年)を受賞。2021 年より現職。専門は、公共交通、都市計画、市街地整備。

